



igaki photo studio

豊岡演劇祭で青年団の舞台に特別出演 また舞台に上がってみたい

井垣ゆうさん(13歳)城崎町湯島



9月に開催された第0回豊岡演劇祭。平田オリザさんが主宰する劇団・青年団「東京ノート・インターナショナルバージョン」に特別出演したのが城崎中学校1年生の井垣ゆうさんです。

城崎国際アートセンターの近くで暮らす井垣さん。開館当初から、友達と遊びに行ったり、滞在アーティストの舞台を観たりして、舞台芸術を身近に感じながら育ちました。7月には平田さんが指導する中・高生演劇入門ワークショップに参加。その演技力が

平田さんの目に留まり、今回の特別出演が実現しました。稽古では「子ども扱いではなく、一人の役者として指導してもらえた。とてもうれしかった」と振り返ります。

演じた役は、美術館で学校の宿題のインタビュをする中学生。英語と日本語で20以上のセリフも用意されました。最終公演が終わったとき「もう劇団員さんと一緒に居られないと思うと寂しかった」と話す井垣さん。「機会があれば、また一緒に舞台上がりたい」と微笑みます。

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



▲狂言「柿山伏」に見入る小学生たち

出石永楽館狂言鑑賞教室 6年生が狂言の世界に触れる

9月30日から10月1日にかけて、出石永楽館で市内の小学6年生全員が狂言を体験・鑑賞する教室が開かれました。京都から招いた一流の狂言師(茂山千五郎家)から「狂言は現在でいうお笑い」「実際にはない道具や舞台など、有るものとして楽しむ」などのコツを聞いてから、狂言の笑い方、泣き方を身振り手振りも加え、大きな声でやってみます。続いて、代表的な狂言である「柿山伏」と「附子」を鑑賞しました。分かりやすい内容と独特なしぐさ、せりふから、会場は何度も大きな笑い声に包まれました。教室に参加した港東小学校の田中陽くん(12歳)は「柿をあむあむ言いながら食べるところが面白かった」と笑顔でした。

対談「宗鏡寺と沢庵和尚」 沢庵和尚の生涯を語る

11月26日(火)まで市立歴史博物館で「宗鏡寺展」が開催されています。その一環として、宗鏡寺住職と歴史博物館学芸員による対談が9月29日に行われました。約40人の参加者の前で、沢庵和尚が大寺院の住職となったが3日で辞め、三日坊主の語源となった説や、石田三成の亡骸を供養した話、出石城の鬼門の方角に宗鏡寺があることなど、興味深い話を聞くことができました。宗鏡寺展で展示される寺宝の解説もあり、明るいところで見ない「釈迦如来十六善神像」など、実物を見ながらの住職の話に参加者は聞き入っていました。



▲宗鏡寺住職(右)と歴史博物館学芸員